

五地域に遑羅を區分し、各地域の特質に従ふてその平均的情態を推知するに足る村落が選ばれてゐるわけである。

三百九十六頁のこの報告には統計は適宜に整理簡略されたものが比較的少數掲載され、この調査によつて觀察された遑羅國經濟の特質、その缺陷と對策に關する論述が大部分をなしてゐるのもこの調査元來の目的に従ふ所であらうが、老成なる統計數値の提示に終らず通讀して唯に經濟のみならず遑羅國の姿を極めて明瞭に理解せしめる。

首都盤谷を含む中央部以外シヤム人は殆ど悉く自給自足の食料生産を出でんとせざる無智慧惰の農民といふ有様にて、商業的活動は彼等の殆ど全く理解せぬ所であるらしい。經濟上支那人の支配する所となつてゐるのも又止むを得ぬ所で、遑羅の獨立はシヤム人が自らの手で商業の支配權を支那人の手より奪回する時に始めて完成されることになる。この意味よりすれば、改良農具の採用をも俄に行はぬ農民シヤム人が商業的訓練より始めて華僑勢力の排除に至るは極めて前途遠しとせねばならぬ。米が僅に輸出農産として名を馳せてゐるのも、それが長期保存に耐へることによつてゐるもので、シヤム農業をして自給自足、物々交換の現況より脱せしむる爲には先づ鋪裝路の築成から着手せねばならぬといふ有様である。

本書はシヤム開發の根本策を提供する重要な資料となるのであらうが、調査方法とその示唆する開發策は我々にとつても極めて参考となる所多いものであらう。(野間三郎)

雪

中谷宇吉郎著

日本海に面する北陸から北海道にかけての地方は、冬季の季節風が多量の雪を齎らすため、多雪地域としては世界的にも有數の地方である。即ち降雪は單に氣温の低いだけでは起らないのであるから、シベリヤ地方などでは雪は普通考へられて居るほど決して多くはないのであつて、我國の多雪地域と比肩し得るのは、アラスカやカナダの太平洋斜面の地方位であらう。斯の如く日本海沿岸では積雪に富むため、雪は農業、交通、住居など生活のあらゆる方面と深い關係を持つて居るのであつて、雪の一年間に與へる災害だけでも、鐵道の損害を除外して、なほ七千萬圓乃至一億三千萬圓ほどの巨額に達すると云はれて居る。それにも拘らず我國では、雪と住民の生活に關する研究などは從來殆ど闕却されて居た爲め、鈴木牧之の「北越雪譚」の如き古典的なものを除けば、この方面の文獻は全く見當らないほどの状態であつた。併し漸く近年農林省管轄の下に「積雪地方農村經濟調査所」が設けられ、或はそれに應じて雪の科學的研究が各方面から注目され始めて來たのであるが、斯る機會に岩波新書が中谷宇吉郎博士の「雪」を加へ得たことは非常に喜ばしいことである。本書は勿論専門書ではなく雪に關する科學的興味を一般に喚起するために書かれたもので「雪と人生」「雪の結晶雜話」「北海道に於ける雪の研究の話」「雪を作る話」の四章に分けられて居るが、本書を通讀することによ

彙報

昭和十四年度史學科卒業論文題目

國史專攻

鎌倉の新時代意識

明治開化期と市民文化の成立

近世都市の一考察

—都市發達と町人階級—

日本教化の展開

—教化意識と時代精神—

我國文化史上に於ける蘭學の意義

我國中世的世界

江戸前期に於ける町人素描

幕末佐賀藩の研究

—藩體制崩壞過程の一考察—

復古神道の發展に就ての考察

律令時代の土地問題を中心として

中世に於ける神佛習合思想の變遷と元寇の影響

所謂水戸學の一考察

中世武家社會に於ける實踐的文化

蘇我公家と耶馬臺國

伊東 誠之

石田 一良

石田 義信

入矢 春雄

内海 十郎

江頭 三郎

金子 一司

川崎新三郎

草間 俊一

小林 尊志

五來 重

櫻井 一朗

田中 章

田中 勝藏

つて、雪の災害から雪華研究の歴史やその方法、或は人工雪華の
ことなど雪の興味ある諸現象を容易に理解することが出来る。殊
に空から降つて来る雪の一片一片が如何に複雑な、而も規則正し
い結晶を作つて居るかを知る時は、誰しも自然に對する新しい驚
異と愛を感じるであらう。尤も本書が最初の「雪と人生」の章を除
いては、大部分が雪の結晶の話に盡きて居るため、多分物足らな
く思はれる人々もないではなからうが、序文にも「雪と人生」の問
題は「結晶の話とちがつて私の本當の専門でない」と記されて居る
如く、雪の物理学を研究される著者に向つて専門外の領域まで多
くを望むことは無理であらう。併し結局雪に關する諸問題の中一
般が多大の關心を持つものは雪と人間生活の交渉であることは云
ふ迄もないことであつて、またこの問題こそ我國の氣象學者や地
理學者が率先して研究すべき任務を有するものであらう。何れに
しても本書の如き優れた著書の出版されたのを機縁にして今後雪
に關する種々の問題が眞摯な研究者によつて續々發表されるなら
ば誠に望ましいこと、云はねばならない。(岩波新書、一六一頁
岩波書店發行、定價五〇錢)(織田武雄)